

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 6 月 26 日	
所属部局・職	動物学教室 環境応答遺伝子科学研究室・修士課程 1 回生
氏名	小孫一浩

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
京都大学 吉田キャンパス	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
ゲノム実習：ヤクザルの昆虫食、主に <i>Camponotus</i> 属 (オオアリ) についての研究	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 27 年 6 月 1 日 ~ 平成 27 年 6 月 5 日 (5 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学 理学研究科 阿形研究室	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の実習では、屋久島でのフィールド実習で採集したサンプルを用いて、ヤクザル <i>Macaca fuscata yakui</i> が食料とする昆虫に関する研究をおこなった。昨年までの屋久島実習とゲノム実習で、屋久島で採集した昆虫の DNA 解析結果と、ヤクザルの糞のサンプルの DNA 解析結果の比較がおこなわれた。今回の実習では、ヤクザルが食するとされている <i>Camponotus</i> 属の 2 種、<i>Camponotus nawaii</i> (ナウヨツボシオオアリ) と <i>Camponotus bishamon</i> (ホソウメマツオオアリ) のサンプルの DNA 解析をおこない、同属内での DNA 配列の比較をおこなったほか、昨年までの DNA データベースに含まれていない昆虫の DNA 解析をおこない、ヤクザルの糞のサンプルの DNA 解析結果との比較をおこなった。</p> <p>実験では、採集してきたサンプル (アリ、その他の昆虫ともに) から DNA 抽出をおこない、ミトコンドリア COI 遺伝子 (DNA バーコーディングで一般的に用いられる) を PCR で増幅した。この DNA サンプルをシーケンシングにかけ、COI 遺伝子の配列を解析した。<i>Camponotus</i> 属に関しては、形態学的分類との相違をふまえながら、巣同士の比較による地域差の検討や、同じ巣内での比較による種内変異の検討をおこなった。また <i>Camponotus</i> 属も含め、得られたすべての昆虫の DNA 解析結果を、ヤクザルの糞のサンプルの DNA 解析結果と比較した。特に <i>Camponotus</i> 属において興味深い結果が出たので、次回の屋久島実習も含め、さらなる研究成果が楽しみである。</p>	
	
<i>Camponotus bishamon</i>	<i>Camponotus nawaii</i>
	
ポスター発表	
<b>6. その他</b> (特記事項など)	